

文字や数に関心をもってほしい



Q 名前が書けない・読めない

自分の名前が読めませんし、字への興味もありません。隣の A ちゃんは、もう字が読めるし書けるようになったと聞きました。このままで大丈夫でしょうか？

A 字に興味をもつきっかけづくりを！

ご存知のように、子どもの発達は一様ではありません。「みんな違って、みんないい」という言葉があるとおり、百人のお子さんがいたら百人がみんな違う個性をもち、発達をしています。ですから、お隣のお子さんが文字に興味をもつようになったとしても、焦らなくていいと思います。

しかし、何もしなくても自然に文字に興味をもつお子さんがいる一方で、少し興味を引くものがあつた方が取り掛かりやすいお子さんもいます。お子さんには、できることからいくつか試してみたいかがでしょうか。

例えば、保護者の方の膝にお子さんを乗せて、毎日絵本を一緒に楽しむ時間を作ったり、4歳児後半頃からでしたらカルタ遊びを一緒に楽しんだり、5歳児くらいになったらお手紙ごっこ(郵便やさんごっこ)などをしたりして、日常生活や遊びの中に文字環境があるようにしてみたいかがでしょうか。お手紙ごっこでも、きっちり字を書かせようと思わず、字に興味をもてるようになるきっかけくらいに考えて気軽に取り組むとよいと思います。この時大事なのは、保護者の方が一緒に楽しむことと、文字を教えようという思いを強くもちすぎないことです。大好きな身近な大人の方が一緒に楽しんでくれるということは、子どもにとって大きな喜びですし、楽しそうな大人の姿を見せることで、「これってなんて書いてあるの?」「○という字はどう書くの?」と子どもが文字に興味をもつきっかけになることが大切です。

また、字に興味をもった後、“書く”という姿につながっていくためには、日頃から手指を使った遊びをしたり、線遊びや迷路遊びをしたり、絵を描いたりすることも大切です。2,3歳頃に、クレヨンなどで思い切りぐるぐる描きをすることも、将来的に字を書く動きにつながります。文字に興味をもたせるだけでなく、普段からその年齢に合った遊びを十分に楽しませることが大事だと考えます。



Q 字を教えようとしても嫌がる(興味がない)

字に興味がないようで、教えようとしてもなかなかやろうとしません。聞こえない振りをしたり、逃げ出したりすることもあります。どうしたらよいでしょうか。

A 焦らず楽しみながら

興味がない時に興味のないことをさせられると、子どもはますます嫌になり、やろうとしなくなる傾向があります。それでは願っている姿とは反対になってしまいますね。大人でも、嫌だと思っているこ

とを無理やりさせられたら反発を覚えます。それと同じだと思います。

お子さんは、字に興味がないということですが、絵本を読んでもらうのは好きですか？また、日常生活の中でお子さんの持ち物に名前が書いてありますか？少し環境を見直しながら、お子さんが文字と自然に出会うような環境になるように試みてはいかがでしょうか。

例えば、毎日の絵本の読み聞かせを一緒に楽しんだ後で、「ここに、○ちゃんの名前と同じ字があるよ」と教えたり、字のつけっこをしたりしてもいいですね。また、お子さんの持ち物や使うものにきちんと名前を書いておき、自然に文字に目が向くようにすることも有効です。「ぼく（私）の名前って、こういう字なんだ」と、興味をもつきっかけになります。しかし、やり過ぎると逆効果になり、絵本を見るのが嫌いになりかねません。字を教え込もうとするのではなく、あくまでも遊びの一つとしてやってみましょう。

大事なのは、親子で一緒に楽しむことだと考えます。保護者の方が楽しむ姿を見せることで、そんなに楽しそうならちょっとやってみようかとお子さんの心が動き、実際に自分からやってみることで、（やらされているのとは違う）楽しさや意欲がもてるようになると思います。無理強いせず、少しでもやってみようとする姿を認め、お子さんの興味がわくように働きかけてみてください。



Q 絵本に興味を示さない

ゲームやDVDが大好きで、「絵本を読むからおいで」と誘っても、「後でいい」と興味を示しません。このままでいいのか、心配になります。

A 眠りにつく前の5分を…

ゲームやテレビ、DVDは、画面が動き、音声もあるため、子どもにとって大きな魅力があります。刺激的といってもいい位です。次々に刺激的な動画が現れるわけですから、いくら見ても飽きず画面に釘付けになります。一方、絵本はアナログです。画面は動きませんし、音声も読み手の声だけでBGMもありません。しかし、絵本の読み聞かせは子どもの想像力や豊かな心を育むことに有効だと考えます。

どちらにも長所と短所がありますが、決定的な違いは、絵本の読み聞かせでは“子どもの反応に対応できる”ということです。絵本を見ながら、子どもの感じたことや思わず出てきた呟きなどに、温かな受け応えができるのです。これは、ゲームやDVDではできないことです。

お子さんは絵本に興味を示さないということですが、園生活ではどうでしょうか？他のお子さんと一緒に楽しんで絵本を見ているようでしたら、あまりご心配はないかもしれません。DVDやゲームに日常味わえない魅力を感じているところなのかもしれませんが、時間を決めるなどしてやりすぎないように見届けてください。また、園でも絵本の読み聞かせに興味を示さないようでしたら、園の先生にご相談しながら、少しずつでも興味もてるよう取り組んでいきましょう。

例えば、ご家庭でお子さんが眠りにつく前の5分間を、(布団の中で)絵本の時間として活用してみてもいいでしょうか。ゆったりとした雰囲気の中で、心地よい親子関係の中で絵本を楽しむ時間を共有することで、お子さんの興味も変わってくると思います。それでもまだ絵本に興味がないようでしたら、お子さんが興味をもちそうな内容のものや、文字の少ない(たっぷり絵を楽しめるような)ものを選んで始めるのもいいかもしれません。焦らず継続することが大切です。



Q 数が分からない

「積み木を3個」は分かるのですが、「5個ちょうだい」と言うと、困ったり怒り出したりします。数に興味をもたせるには、どうしたらよいでしょうか？

A 日常生活の中で数を意識するのが大切です

「数を数える」と言っても、いろいろな方法があります。例えば、「1,2,3,・・・9,10」と数をそらんじること数えることの一つですし、物と数とを1対1対応するのも“数える”ことです。お子さんは“3つまでは分かってそれ以上になると分からない”ということですから、1対1対応で数えることについてのご相談だと思います。

ご相談の方は、日常生活の中で、数について意識をもってお子さんに接していらっしゃるようです。これはとても大切なことです。

お子さんの年齢や発達によつての差はありますが、お子さんが5歳未満くらいでしたら、生活や遊びの中で「○個ちょうだい」とか「はい、△個あげるね」などと、意識的に数を伝えることを繰り返していくことで、数えることに気づいたり、数そのものに関心をもったりするのではないかと考えます。また、階段を一緒に数えながら登ったり、お子さんの好きなおもちゃを数えたりするのもいいですね。数をそらんじる遊びの一つとして、お風呂で「〇〇まで数えよう」などと一緒に数えるのも楽しいと思います。ただし、どれもやりすぎると時に逆効果にもなってしまいますので、ご注意ください。

なお、年長になっても気になる表れが続くようでしたら、園の先生にご相談し、園生活の中ではどんな様子か伺ってみてください。また、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもよいかもしれません。



Q 時計に興味がない(時間を意識しない)

「時計の長い針が6になったら片付けようね」と約束しても、6が過ぎても遊び続けてしまいます。数字は分かっているみたいなのですが、どうしたらよいでしょうか？

A 時間に気付かせるような声かけを

子どもたちは遊びに夢中になると、時間が過ぎるのを忘れてしまいます。夢中になりすぎて、時にはトイレに行くのさえ忘れて間に合わなくなるお子さんもいます。これは生活上ではやや困ったことかもしれませんが、子どもの姿から言うと、夢中になるほど遊べるといふ姿はすばらしいと思います。

時間を意識することについても、同様のことが言えるのではないのでしょうか。

片付けの時間を約束しても守れないということですが、本来、子どもたちの遊びには時間という概念はあまりないので、遊んでいてつい時間がオーバーしてしまうのも、わざとではないのだと思います。

しかし、集団生活を送るには、時間という概念はだんだん必要になってきます。園生活では明確には時間が区切られてはいませんが、それでも昼食や片付け、降園時刻など、おおよその区切りがありますし、小学校以降は“〇時間目”という形で、しっかり区切られます。その時に急に窮屈さを感じないためにも、ご相談の方がやってくださっているように、時折時間に気付かせるような声かけが大事になりま

すね。さらに、ご家庭の生活に合わせて、朝起きる時間や食事の時間、就寝時間などに「〇時だから△しようね」などと声をかけ、時間が意識できるようにしてみたいでしょうか。

時間を守れない時に「約束を破った」と叱るのではなく、楽しい遊びを満喫している姿を褒めながら、時間(時計の針)に気付かせるよう声をかけてあげてください。また、約束した時間に気付かせるためにも、タイマーなどの利用も有効だと思います。時間の概念は、徐々に育っていくと思いますので、小さな積み重ねを大事にしていきましょう。



Q 時計や数字から離れない

数字が大好きで、特に時計を見ていけばご機嫌なんです。園でも、時計を見ていることが多いと聞きました。この子なりに楽しんでいるとは思いますが、このままでよいのでしょうか？

A 人と関わる状況を取り入れ視野を広げましょう

子どもたちは年齢が小さくてもそれぞれ個性がありますから、お子さんによって興味をもつものが違うのは当然です。例えば、機関車トーマスが大好きで、トーマスの仲間の名前が全部言えたり、恐竜が好きで恐竜のことなら何でも分かるようになったりなど、子どもたちは大人が思いもよらない力を発揮することがあります。それは悪いことではなく、子どもたちの個性であると考えます。

興味をもったものを伸ばしていくことは大切ですが、それだけやっていけばよいかというと、必ずしもそうとは言い切れません。興味をもったもの以外のことにも目を向け、楽しめるようになってほしいと思うのは当然のことです。そして、それは今後のお子さんの学習や生活にも関わってきます。

お子さんは時計が大好きということですから、ご家庭や園での遊びの時に、「時計の針が〇〇まで、一緒に遊ぼう」とお子さんを誘ったり、遊びにもし入らなかつたら「じゃあ、時間の係をやってね」「長い針が〇〇になったら教えてね」と役割を与えたりしてはいかがでしょうか。一人で遊びや生活が完結してしまわないよう、人と関わるような状況を取り入れることで、本人の興味を受け止めながら視野を広げていくことにつながります。本人がいやという表現をしたら、無理強いはやめましょう。ますます頑なになってしまうこともありますから。もし、嬉しそうな表情を見せたり、みんなの役に立ったりしたという時は、大いに褒めてあげてください。褒められるのは本人も悪い気はしませんし、自己肯定感にもつながると思います。

しかし、特定のことに意外に関心を示さず、友達との関わりを嫌がるような様子が続くようでしたら、園の先生や近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室(係)などにご相談されることをお勧めします。



Q 絵本の登場人物の気持ちが分からない

絵本を見ていても、出てくる人物や動物などの気持ちが分からないようです。へんなところで笑ったり、悲しい場面でぽかんとしたりしています。どうしたらよいのでしょうか。

A 豊かな体験が気持ちの理解につながります

お子さんは、絵本などのストーリーをたっぷり楽しむ段階になっていないのかもしれませんが。これまで、手や足を使ってたくさん遊んできましたか？一緒に遊んだり、けんかしたりするようなお友達はいませんか？たくさんの人（両親だけでなく、祖父母や近所の人など）と関わるような場面はありますか？

子どもの心の発達は一様ではありません。子どもは、たくさん遊びを通して、触れたり、感じたり、よいことやちょっと嫌なことを体験したりしながら、心を耕しているところなのです。

絵本の登場人物（動物・ものなど）の気持ちが分かるということは、自分の経験と重ねながら想像し、思いを馳せ、理解するということです。年齢が小さいお子さんは未経験なことが多いため、お話の登場人物の気持ちに気付くところまで求めるのは難しいかもしれません。まずは、日常の遊びを通して豊かな経験（いろいろな感情の体験）をすることが大切です。また、5歳児くらいのお子さんでも、経験が豊かでないと、登場する人やものの気持ち、感情の機微が分からない場合もあります。あきらめず、まずはお子さんが思い切り遊び、いろいろな体験を通して学ぶことを大切にしてください。そして、毎日のちょっとした時間を使いながら絵本の読み聞かせも続けていきましょう。その際も、はじめは単純な内容のものを選び、お子さんの成長に合わせて徐々に気持ちが理解できるもの（ちょっと長い物語絵本）へと、選択の幅を広げてみてはいかがでしょうか。

しかし、年長になっても、お話のかわいそうな場面でぼかんとしていたり笑い出したりするような、明らかに不相応な表れが多く見られるようでしたら、お子さんが通っている園の先生をはじめ、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談するとよいかもしれません。子どもに関わる大人たちみんなで、子どもたちの豊かな心を育てていきましょう。



Q 大小、多い少ないが分からない

大小や多い少ないなどの違いが分からないみたいで困っています。どうしたら大きさや量の違いなどが分かるようになるでしょうか。

A 日常の中で興味を引き出して

子どもはいろいろな体験を通して学んでいます。知識を教えるだけでは、その場では分かったつもりでも、その後応用することが難しく、結局子ども自身の力になっていないことがあります。

物の大小や量についても同じことが言えます。今お子さんは、“これとこれを比べたら、こちらが大きい(多い)”などということを、周りの人の様子を見ながら吸収し、学んでいるのかもしれませんが。お子さんにとってこれは大事な経験です。しかし、意識をもっていれば、日常の生活や遊びの中で同じような経験がたくさんできるのです。

例えば、大小の認識については、砂山、おもちゃ、大人と子どもの服、道端の石などに注目させながら、「どっちが大きいかな」とクイズのような遊びを通してお子さんの興味を引き出し、考えさせることをやってみてはいかがでしょうか。また、量についても同じように、ご飯、ブロック、おやつやおもちゃ、複数のものの量を比べっこするなど、何か特別なものを用意しなくても、日常生活の中で身近な大人が少し意識をもって声をかけることが大切です。やがてお子さんが興味をもつようになり、大きさや量についての認識がもてるようになると思います。ただし、やりすぎにはご注意ください。楽しくなければ、逆効果になります。

なお、年長になってもご心配な表れが続くようでしたら、園の先生をはじめ、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭相談室（係）にご相談してみてもいいでしょうか。